

出向く宮農レポート

～90歳まで続けるために～



南部宮農センター
安部 蒼汰

今回は豊明産直友の会の会員で、今年度徳田柿組合の組合長をされている石川昭徳さんの圃場へ、「富有柿」の生育状況の確認に伺いました。

今年の夏は、ほとんどの果実が「日焼け果」となっていました。日焼け果は早期に熟し軟化状態となるため腐敗することが多く、病害虫発生の原因となるため摘果することが必要です。来年の日焼け果被害を防ぐため、冬季剪定についての案内も同時に行いました。果実をつける枝を強い直射日光から守るため、日傘の代わりとなるような枝を配置するように案内しました。

また気温が高いと発生しやすい「カキノヘタムシガ」の防除も必要です。カキノヘタムシガがヘタから果実内部へ入ると可食部を食い荒らされ大きな被害が出ます。対策として、「アディオン乳剤」を3000倍で希釈して散布するように案内しました。



石川さんは豊明地域で活動されており、豊明・東郷グリーンセンターや豊明市の学校給食、インショップへの出荷を積極的に取り組まれています。早秋柿や次郎柿以外にも様々な野菜や果樹も栽培し、「とりあえず90歳まで趣味と両立して農業を続けていきたい。」と楽しそうに話してくれました。

柿のカキノヘタムシガ対策

アディオン乳剤

- 希釈倍数：2000～3000倍
- 使用量：200～700L/10a
- 使用時期：収穫7日前まで

